

日興レジェンド・イーグル・ファンド (資産成長コース) / (円ヘッジコース) / (毎月決算コース)

追加型投信 / 内外 / 株式

資産成長コース	第18期 (決算日 2018年12月5日)		
円ヘッジコース	第16期 (決算日 2018年12月5日)		
毎月決算コース	第16作成期		
	第88期 (決算日 2018年7月5日)	第91期 (決算日 2018年10月5日)	
	第89期 (決算日 2018年8月6日)	第92期 (決算日 2018年11月5日)	
	第90期 (決算日 2018年9月5日)	第93期 (決算日 2018年12月5日)	

作成対象期間 (2018年6月6日~2018年12月5日)

資産成長コース 第18期末 (2018年12月5日)	
基準価額	15,133円
純資産総額	93,312百万円
第18期	
騰落率	△2.9%
分配金(税込み)	0円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

円ヘッジコース 第16期末 (2018年12月5日)	
基準価額	11,063円
純資産総額	10,383百万円
第16期	
騰落率	△6.6%
分配金(税込み)	0円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

毎月決算コース 第93期末 (2018年12月5日)	
基準価額	9,851円
純資産総額	1,689億円
第88期~第93期	
騰落率	△2.8%
分配金(税込み)合計	350円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

●受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚くお礼申し上げます。

「日興レジェンド・イーグル・ファンド (資産成長コース)」、「日興レジェンド・イーグル・ファンド (円ヘッジコース)」、「日興レジェンド・イーグル・ファンド (毎月決算コース)」はこの度、それぞれ上記の決算を行いました。

上記ファンドは、ファースト・イーグル・グローバル・バリュー・マスター・ファンドへの投資を通じて、主に割安と判断される世界の株式等に実質的に投資し、米ドルベースで相場環境にかかわらずプラスのリターンを追求することで、投資信託財産の長期的な成長を目指して運用を行います。なお、Amundi Funds キャッシュ・USDへの投資も行います。

資産成長コース、毎月決算コースにおいては、原則として外貨建資産の為替ヘッジは行いません。円ヘッジコースにおいては、外貨建資産については原則として為替ヘッジを行い、為替リスクの低減をはかります。

当作成対象期間につきましてもそれに沿った運用を行いました。

ここに運用状況についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。

【閲覧方法】

右記<お問い合わせ先>に記載されているホームページアドレスにアクセス⇒「ファンド情報」メニューから「ファンド・基準価額一覧」(当ファンドが償還した場合は「償還ファンド一覧」)をクリック⇒当該一覧から当ファンドのファンド名称をクリック⇒運用報告書(全体版)をクリック
※ホームページ掲載日より5年間は閲覧いただけます。

- 運用報告書(全体版)は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

アムンディ・ジャパン株式会社

〒100-0011 東京都千代田区千代田1丁目2番2号

<お問い合わせ先>

お客様サポートライン 0120-202-900 (フリーダイヤル)
受付は委託会社の営業日の午前9時から午後5時まで
ホームページアドレス: <https://www.amundi.co.jp/>

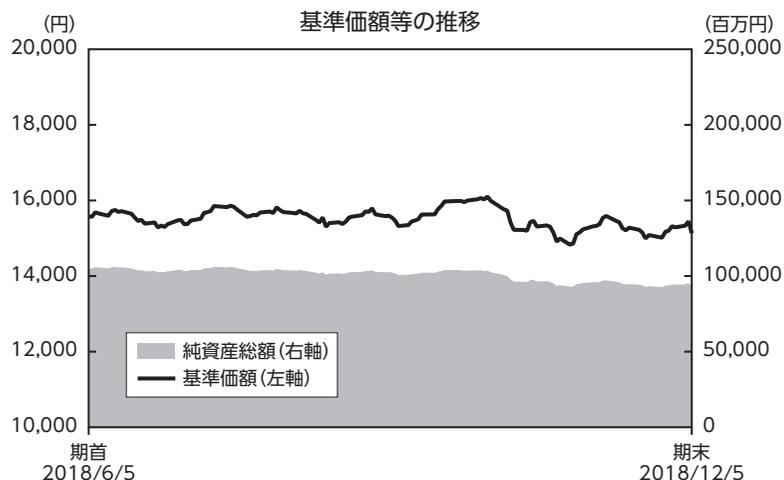
運用経過

■ 資産成長コース

基準価額等の推移

第18期首	15,579円
第18期末	15,133円
既払分配金 (税込み)	0円
騰落率	△2.9%

当ファンドは運用成果の目標基準となるベンチマークを設けておりません。また、当ファンドと適切に対比できる参考指数はありません。



基準価額の主な変動要因

下落要因

- ① 2018年10月にパウエルF R B (米連邦準備理事会) 議長の強気な発言等を受けて株式市場が下落したこと
- ② 期初から2018年8月中旬にかけて金価格が下落し、保有する金関連資産が下落したこと
- ③ 2018年10月から2018年11月にかけて原油相場が下落したこと等から、保有するエネルギー関連銘柄が下落したこと

上昇要因

- ① 米国を中心に好調な企業決算が市場で好感される等、2018年7月に株式市場が上昇したこと
- ② 2018年10月に中東情勢の緊迫化による地政学的リスクの高まり等を背景に、金価格が上昇したこと
- ③ 為替市場において、当期は米ドル高・円安となったこと

1 万口当たりの費用明細

項 目	第18期 (2018年6月6日 ～2018年12月5日)		項 目 の 概 要
	金額	比率	
(a) 信託報酬 (投信会社) (販売会社) (受託会社)	94円 (34) (59) (2)	0.606% (0.217) (0.379) (0.011)	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価 交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) その他費用 (保管費用) (監査費用) (印刷費用) (その他)	0 (0) (0) (0) (0)	0.003 (0.000) (0.001) (0.001) (0.000)	その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用 監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 ファンドの法定開示資料の印刷に係る費用 信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用等
合 計	94	0.609	

期中の平均基準価額は15,510円です。

(注1) 費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 消費税は報告日の税率を採用しています。

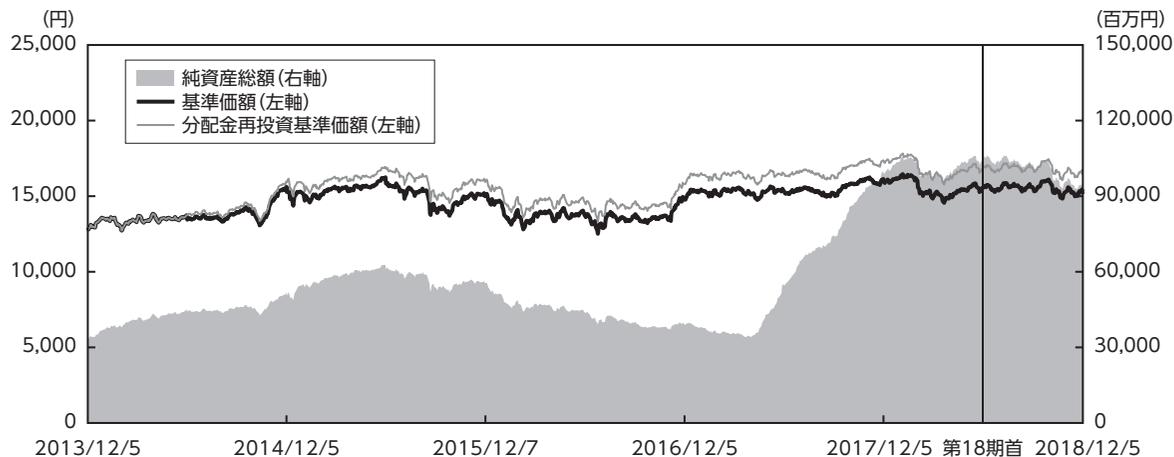
(注3) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注4) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券(マザーファンドを除く。)が支払った費用を含みません。

(注5) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2013年12月5日～2018年12月5日)



- (注1) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注2) 実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額は、2013年12月5日の値を基準価額と同一となるように指数化しています。

最近5年間の年間騰落率

	2013/12/5 期首	2014/12/5 決算日	2015/12/7 決算日	2016/12/5 決算日	2017/12/5 決算日	2018/12/5 決算日
基準価額 (円)	12,913	15,279	15,158	14,765	15,965	15,133
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	600	300	100	200	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	23.3	1.1	-1.9	9.5	-5.2
純資産総額 (百万円)	33,516	50,580	55,679	38,952	98,971	93,312

(注) 運用成果の目標基準となるベンチマークおよび運用方針に対し適切に比較できる参考指数はありません。

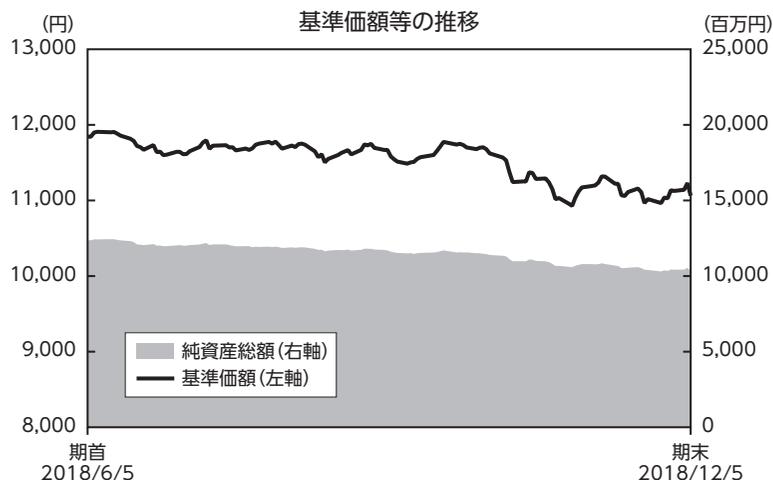
運用経過

■円ヘッジコース

基準価額等の推移

第16期首	11,843円
第16期末	11,063円
既払分配金 (税込み)	0円
騰落率	△6.6%

当ファンドは運用成果の目標基準となるベンチマークを設けておりません。また、当ファンドと適切に対比できる参考指数はありません。



基準価額の主な変動要因

下落要因

- ① 2018年10月にパウエルF R B (米連邦準備理事会) 議長の強気な発言等を受けて株式市場が下落したこと
- ② 期初から2018年8月中旬にかけて金価格が下落し、保有する金関連資産が下落したこと
- ③ 2018年10月から2018年11月にかけて原油相場が下落したこと等から、保有するエネルギー関連銘柄が下落したこと

上昇要因

- ① 米国を中心に好調な企業決算が市場で好感される等、2018年7月に株式市場が上昇したこと
- ② 2018年10月に中東情勢の緊迫化による地政学的リスクの高まり等を背景に、金価格が上昇したこと

1 万口当たりの費用明細

項 目	第16期 (2018年6月6日 ～2018年12月5日)		項 目 の 概 要
	金額	比率	
(a) 信託報酬 (投信会社) (販売会社) (受託会社)	70円 (25) (44) (1)	0.606% (0.217) (0.379) (0.011)	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価 交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) その他費用 (保管費用) (監査費用) (印刷費用) (その他)	2 (0) (1) (1) (0)	0.016 (0.000) (0.005) (0.011) (0.000)	その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用 監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 ファンドの法定開示資料の印刷に係る費用 信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用等
合 計	72	0.622	

期中の平均基準価額は11,486円です。

(注1) 費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 消費税は報告日の税率を採用しています。

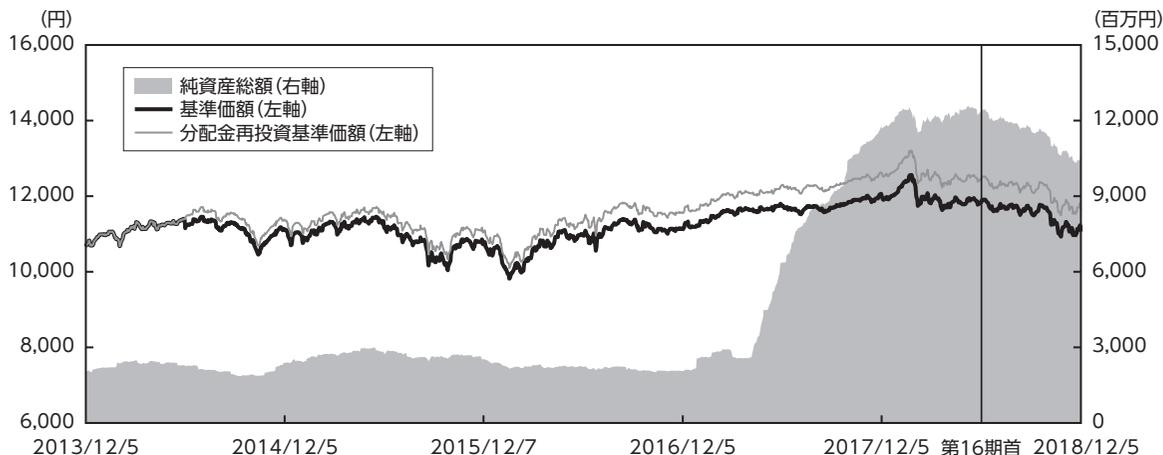
(注3) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注4) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券(マザーファンドを除く。)が支払った費用を含みません。

(注5) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2013年12月5日～2018年12月5日)



- (注1) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注2) 実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額は、2013年12月5日の値を基準価額と同一となるように指数化しています。

最近5年間の年間騰落率

	2013/12/5 期首	2014/12/5 決算日	2015/12/7 決算日	2016/12/5 決算日	2017/12/5 決算日	2018/12/5 決算日
基準価額 (円)	10,749	11,103	10,785	11,122	11,986	11,063
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	250	70	100	150	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	5.6	-2.3	4.1	9.1	-7.7
純資産総額 (百万円)	2,056	2,375	2,529	2,059	11,706	10,383

(注) 運用成果の目標基準となるベンチマークおよび運用方針に対し適切に比較できる参考指数はありません。

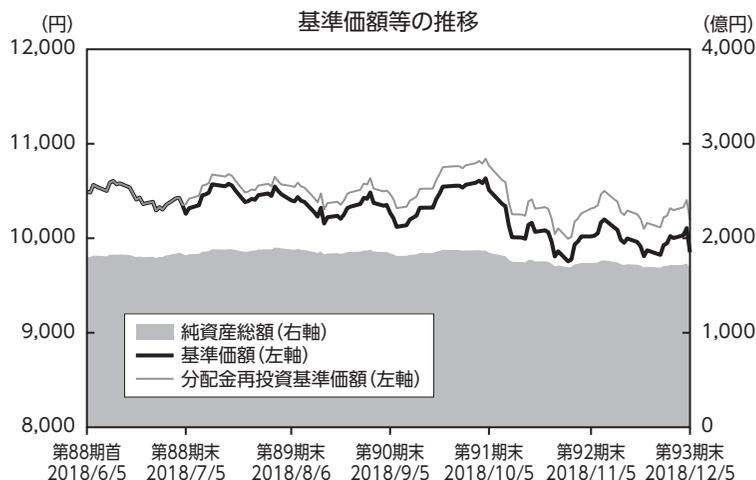
運用経過

■ 毎月決算コース

基準価額等の推移

第88期首	10,491円
第93期末	9,851円
既払分配金 (税込み)	350円
騰落率	△2.8% (分配金再投資ベース)

当ファンドは運用成果の目標基準となるベンチマークを設けておりません。また、当ファンドと適切に対比できる参考指数はありません。



(注1) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注3) 分配金再投資基準価額は、2018年6月5日の値を基準価額と同一となるように指数化しています。

基準価額の主な変動要因

下落要因

- ① 2018年10月にパウエルF R B (米連邦準備理事会) 議長の強気な発言等を受けて株式市場が下落したこと
- ② 当作成期初から2018年8月中旬にかけて金価格が下落し、保有する金関連資産が下落したこと
- ③ 2018年10月から2018年11月にかけて原油相場が下落したこと等から、保有するエネルギー関連銘柄が下落したこと

上昇要因

- ① 米国を中心に好調な企業決算が市場で好感される等、2018年7月に株式市場が上昇したこと
- ② 2018年10月に中東情勢の緊迫化による地政学的リスクの高まり等を背景に、金価格が上昇したこと
- ③ 為替市場において、当作成期は米ドル高・円安となったこと

1 万口当たりの費用明細

項 目	第88期～第93期 (2018年6月6日 ～2018年12月5日)		項 目 の 概 要
	金額	比率	
(a) 信託報酬 (投信会社) (販売会社) (受託会社)	62円 (22) (39) (1)	0.606% (0.217) (0.379) (0.011)	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価 交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) その他費用 (保管費用) (監査費用) (印刷費用) (その他)	0 (0) (0) (0) (0)	0.002 (0.000) (0.001) (0.001) (0.000)	その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用 監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 ファンドの法定開示資料の印刷に係る費用 信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用等
合 計	62	0.608	

期中の平均基準価額は10,279円です。

(注1) 費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 消費税は報告日の税率を採用しています。

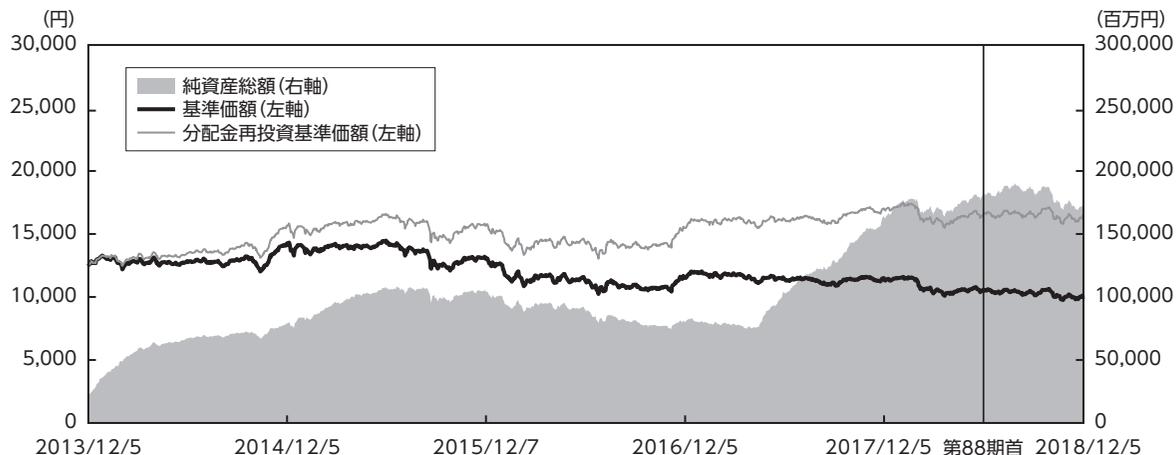
(注3) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注4) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券(マザーファンドを除く。)が支払った費用を含みません。

(注5) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2013年12月5日～2018年12月5日)



- (注1) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注2) 実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額は、2013年12月5日の値を基準価額と同一となるように指数化しています。

最近5年間の年間騰落率

	2013/12/5 期首	2014/12/5 決算日	2015/12/7 決算日	2016/12/5 決算日	2017/12/5 決算日	2018/12/5 決算日
基準価額 (円)	12,658	14,117	13,055	11,504	11,350	9,851
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	1,300	1,200	1,200	1,200	950
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	23.3	1.1	-1.9	9.5	-5.0
純資産総額 (百万円)	22,917	78,684	104,237	79,935	162,699	168,906

(注) 運用成果の目標基準となるベンチマークおよび運用方針に対し適切に比較できる参考指数はありません。

投資環境

<世界株式市場>

当（作成）期の株式市場では、2018年6月後半にトランプ米国大統領が中国に対する追加関税を公表したことで米中貿易摩擦が激化するとの懸念から下落したものの、9月までは米国を中心に企業決算が全体的に好調であったこと等により、米国市場が世界株式の上昇を支える形となりました。10月は堅調な経済指標やパウエルF R B議長の強気な発言を受けて米国長期金利が上昇（国債価格は下落）し、世界的に株式市場が下落しました。また、貿易をめぐる緊張、中国の経済成長率の減速、ドイツの政治的な問題、イタリアの予算案をめぐる懸念、欧州の景況感の陰りなども株式市場の下押し要因となりました。11月下旬から当（作成）期末にかけては、年末商戦や米中間の緊張緩和期待で小幅に上昇しました。このような環境下、当（作成）期の世界の先進国の主要株式の動きを示すMSCIワールド指数（配当込み）は4.2%（米ドルベース）の下落となりました。

<原油・金市場等>

当（作成）期の商品市場では、原油価格（WTI先物）は、中国経済の減速懸念による需要鈍化及び主要産油国の供給拡大による需給環境の悪化懸念が高まったこと等から、前（作成）期末比で下落しました。金価格は、当（作成）期初から2018年8月中旬にかけては米ドルが対主要通貨で強含んだこと等から、下落基調で推移しました。10月は中東情勢の緊迫化による地政学的リスクの高まり等を背景に反発したものの、当（作成）期末の金価格は前（作成）期末比で下落しました。

<為替市場>

当（作成）期の為替市場では、2018年7月にパウエルF R B議長の経済に自信をみせた議会証言が米ドル高要因として材料視されるなど、米ドル高・円安基調で推移しました。8月は米中間の貿易摩擦等からリスク回避の円買いが一時進行しましたが、9月には米国の時間当たり賃金が2009年6月以来の伸びを示したことからF R Bによる利上げ期待が高まり、米ドル高・円安となりました。その後複数のF O M C（米連邦公開市場委員会）メンバーが利上げサイクルの終了が近づいていることを示唆する発言をしたことなどで、米ドルは若干弱含みましたが、当（作成）期末の米ドル/円レートは前（作成）期末に比べ米ドル高・円安となりました。

<短期金融商品市場>

当（作成）期の欧州短期金融市場では、E C B（欧州中央銀行）による金融緩和方針を受けて、前（作成）期に引き続き短期金利はマイナスの水準で推移しました。米国短期金融市場では、F R Bによる金融引き締め方針を受けて、短期金利は上昇傾向となりました。

（各指数および価格等の基準日は、日興レジェンド・イーグル・ファンドの基準価額に対応する1営業日前です。）

ポートフォリオ

<日興レジェンド・イーグル・ファンド（資産成長コース）>

当ファンドは、主としてケイマン籍の外国投資信託である「ファースト・イーグル・グローバル・バリュース・マスター・ファンド」の受益証券とルクセンブルク籍の外国投資法人である「Amundi Funds キャッシュ・USD」の投資証券に投資しました。世界の株式等への実質的な投資は「ファースト・イーグル・グローバル・バリュース・マスター・ファンド」を通じて行いました。

(アムンディ・ジャパン株式会社)

<日興レジェンド・イーグル・ファンド（円ヘッジコース）>

当ファンドは、主としてケイマン籍の外国投資信託である「ファースト・イーグル・グローバル・バリュース・マスター・ファンド」の受益証券とルクセンブルク籍の外国投資法人である「Amundi Funds キャッシュ・USD」の投資証券に投資しました。世界の株式等への実質的な投資は「ファースト・イーグル・グローバル・バリュース・マスター・ファンド」を通じて行いました。また、外貨建資産については為替ヘッジを行い為替リスクの低減を図りました。

(アムンディ・ジャパン株式会社)

<日興レジェンド・イーグル・ファンド（毎月決算コース）>

当ファンドは、主としてケイマン籍の外国投資信託である「ファースト・イーグル・グローバル・バリュース・マスター・ファンド」の受益証券とルクセンブルク籍の外国投資法人である「Amundi Funds キャッシュ・USD」の投資証券に投資しました。世界の株式等への実質的な投資は「ファースト・イーグル・グローバル・バリュース・マスター・ファンド」を通じて行いました。

(アムンディ・ジャパン株式会社)

<ファースト・イーグル・グローバル・バリュース・マスター・ファンド>

当（作成）期のファースト・イーグル・グローバル・バリュース・マスター・ファンドの基準価額は4.8%の下落（米ドルベース）となりました。基準価額への貢献度をみますと、国別では日本、米国、英国がパフォーマンスの重しとなりました。セクター別では、ヘルスケアがプラスに貢献した反面、エネルギー、不動産はパフォーマンスの重しとなりました。金関連資産もパフォーマンスの重しとなりました。当（作成）期は、市場のボラティリティ（価格変動性）上昇に伴って、個別銘柄単位で割安と判断できる新たな投資機会を特定したことや、既に投資している銘柄を買い増した結果、株式の組入比率が上昇し、現金等の比率は低下しました。

(ファースト イーグル インベストメント マネジメント)

<Amundi Funds キャッシュ・USD>

主として米ドル建の短期金融商品等に投資し、運用資産の着実な成長と安定した収益の確保を図ることを目標として運用を行いました。

(アムンディ アセットマネジメント)

ベンチマークとの差異

- 日興レジェンド・イーグル・ファンド（資産成長コース）■
- 日興レジェンド・イーグル・ファンド（円ヘッジコース）■
- 日興レジェンド・イーグル・ファンド（毎月決算コース）■

当ファンドは運用成果の目標基準となるベンチマークを設けておりません。また、当ファンドと適切に対比できる参考指数はありません。

分配金

- 日興レジェンド・イーグル・ファンド（資産成長コース）■

収益分配金につきましては、基準価額水準および市況動向等を勘案した結果、見送りとさせていただきます。なお、収益分配に充てず、信託財産内に留保した収益については、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

分配原資の内訳

(単位：円・1万口当たり・税込み)

項 目	第18期
	(2018年6月6日～2018年12月5日)
当期分配金	－
(対基準価額比率)	(－ %)
当期の収益	－
当期の収益以外	－
翌期繰越分配対象額	5,133

- ・「対基準価額比率」は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なる点にご留意ください。
- ・「当期の収益」「当期の収益以外」は小数点以下切捨てで算出しているため、合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

■日興レジェンド・イーグル・ファンド（円ヘッジコース）■

収益分配金につきましては、基準価額水準および市況動向等を勘案した結果、見送りとさせていただきます。なお、収益分配に充てず、信託財産内に留保した収益については、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

分配原資の内訳

(単位：円・1万口当たり・税込み)

項目	第16期
	(2018年6月6日～2018年12月5日)
当期分配金	－
(対基準価額比率)	(－%)
当期の収益	－
当期の収益以外	－
翌期繰越分配対象額	1,092

- ・「対基準価額比率」は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なる点にご留意ください。
- ・「当期の収益」「当期の収益以外」は小数点以下切捨てで算出しているため、合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

■日興レジェンド・イーグル・ファンド（毎月決算コース）■

収益分配金につきましては、基準価額水準および市況動向等を勘案した結果、以下のとおり分配を行いました。なお、収益分配に充てず、信託財産内に留保した収益については、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

分配原資の内訳

(単位：円・1万口当たり・税込み)

項目	第88期	第89期	第90期	第91期	第92期	第93期
	(2018年6月6日～2018年7月5日)	(2018年7月6日～2018年8月6日)	(2018年8月7日～2018年9月5日)	(2018年9月6日～2018年10月5日)	(2018年10月6日～2018年11月5日)	(2018年11月6日～2018年12月5日)
当期分配金	100	50	50	50	50	50
(対基準価額比率)	(0.965%)	(0.478%)	(0.485%)	(0.473%)	(0.497%)	(0.505%)
当期の収益	－	－	－	－	－	－
当期の収益以外	100	50	50	50	50	50
翌期繰越分配対象額	707	657	607	557	507	457

- ・「対基準価額比率」は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なる点にご留意ください。
- ・「当期の収益」「当期の収益以外」は小数点以下切捨てで算出しているため、合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

今後の運用方針

<日興レジェンド・イーグル・ファンド（資産成長コース）>

当ファンドは引き続き、主としてケイマン籍の外国投資信託である「ファースト・イーグル・グローバル・バリュー・マスター・ファンド」の受益証券とルクセンブルク籍の外国投資法人である「Amundi Funds キャッシュ・USD」の投資証券に投資します。

(アムンディ・ジャパン株式会社)

<日興レジェンド・イーグル・ファンド（円ヘッジコース）>

当ファンドは引き続き、主としてケイマン籍の外国投資信託である「ファースト・イーグル・グローバル・バリュー・マスター・ファンド」の受益証券とルクセンブルク籍の外国投資法人である「Amundi Funds キャッシュ・USD」の投資証券に投資します。また、外貨建資産については為替ヘッジを行い為替リスクの低減を図ります。

(アムンディ・ジャパン株式会社)

<日興レジェンド・イーグル・ファンド（毎月決算コース）>

当ファンドは引き続き、主としてケイマン籍の外国投資信託である「ファースト・イーグル・グローバル・バリュー・マスター・ファンド」の受益証券とルクセンブルク籍の外国投資法人である「Amundi Funds キャッシュ・USD」の投資証券に投資します。

(アムンディ・ジャパン株式会社)

<ファースト・イーグル・グローバル・バリュー・マスター・ファンド>

私たちは、予期せぬ事態が生じて、回復不可能な損失を回避できるよう、十分に割安な水準で投資を行うことを重視し、個別銘柄の株価が私たちの考える本源的価値を十分に下回る場合にのみ、投資を行います。十分に割安と判断できる投資機会に限られる局面では、無理に投資せずに現金等を保持します。現金等は個別銘柄単位で十分に割安と判断できる投資機会を特定した段階で、投資資金に充当するものと位置付けています。また、予期せぬリスクに対するヘッジ手段、及び中長期的に資産の実質的価値の維持を目指す手段として、金関連資産を一定比率保有し続ける方針です。

今後も引き続き、ボトムアップによる銘柄選択を通じて質の高い事業や希少な資産を有すると考えられる企業に分散投資することで、資産の保全に努めながら、米ドルベースで相場環境にかかわらずプラスのリターンを追求し、投資信託財産の中長期的な成長を目指した運用を継続する方針です。

(ファースト イーグル インベストメント マネジメント)

<Amundi Funds キャッシュ・USD>

主として米ドル建の短期金融商品等に投資し、運用資産の着実な成長と安定した収益の確保を図ることを目標として運用を行います。

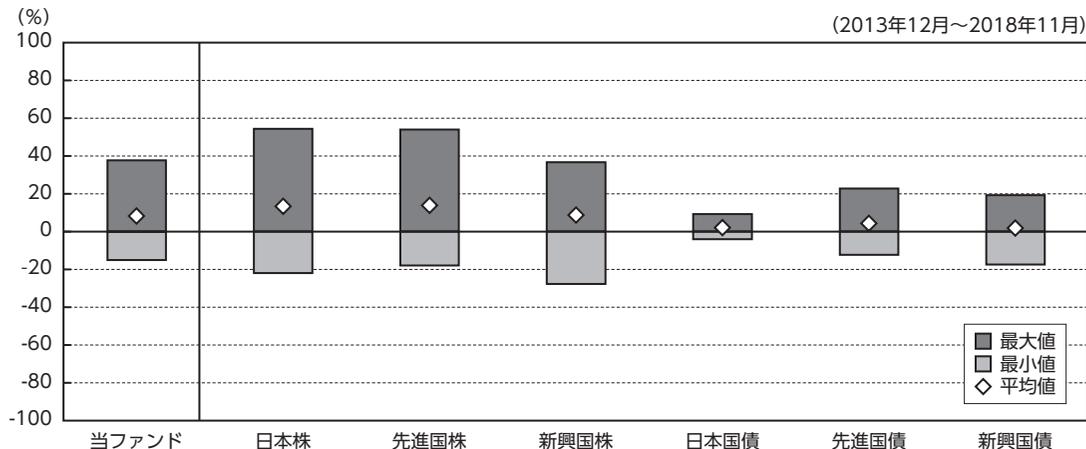
(アムンディ アセットマネジメント)

ファンドの概要

	資産成長コース	毎月決算コース	円ヘッジコース
商品分類	追加型投信／内外／株式		
信託期間	2009年9月11日から無期限です。	2011年3月18日から無期限です。	2011年3月18日から無期限です。
運用方針	ファースト・イーグル・グローバル・バリュー・マスター・ファンドへの投資を通じて、主として世界各国の株式等へ実質的に投資を行い、投資信託財産の長期的な成長を目指して運用を行います。なお、Amundi Funds キャッシュ・USDへの投資も行います。		外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行い、為替リスクの低減をはかります。
主要投資対象	日興レジェンド・イーグル・ファンド	ファースト・イーグル・グローバル・バリュー・マスター・ファンド Amundi Funds キャッシュ・USD	
	ファースト・イーグル・グローバル・バリュー・マスター・ファンド	世界各国の株式等	
	Amundi Funds キャッシュ・USD	米ドル建短期金融商品等	
運用方法	①ファースト・イーグル・グローバル・バリュー・マスター・ファンドへの投資を通じて、主に割安と判断される世界の株式等に実質的に投資し、米ドルベースで相場環境にかかわらずプラスのリターンを追求することで、投資信託財産の長期的な成長を目指して運用を行います。 ②ファースト・イーグル・グローバル・バリュー・マスター・ファンドへの組入比率は、原則として高位を保ちます。		③外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行い、為替リスクの低減をはかります。
分配方針	毎決算時（年2回、原則毎年6月5日および12月5日。休業日の場合は翌営業日）に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。	毎決算時（年12回、原則毎月5日。休業日の場合は翌営業日）に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。	毎決算時（年2回、原則毎年6月5日および12月5日。休業日の場合は翌営業日）に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。
	分配対象額の範囲は、繰越分も含めた経費控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。収益分配金額は、委託者が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないことがあります。		

当ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較

■ 資産成長コース



当ファンドと他の代表的な資産クラスの平均騰落率、年間最大騰落率及び最小騰落率

(%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
平均値	8.2	13.4	13.9	8.7	2.0	4.3	1.8
最大値	37.7	54.4	53.9	36.7	9.3	22.7	19.3
最小値	-15.0	-22.0	-18.0	-27.7	-4.0	-12.3	-17.4

(注1) 上記は、当ファンドと他の代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。

(注2) 上記は、2013年12月から2018年11月の5年間の各月末における直近1年間騰落率の平均値・最大値・最小値を、当ファンド及び他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

各資産クラスの指数

日本株：東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株：MSCIコクサイ・インデックス (税引後配当込み、円ベース)

新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス (税引後配当込み、円ベース)

日本国債：NOMURA-BPI国債

先進国債：FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債：JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド (円ベース)

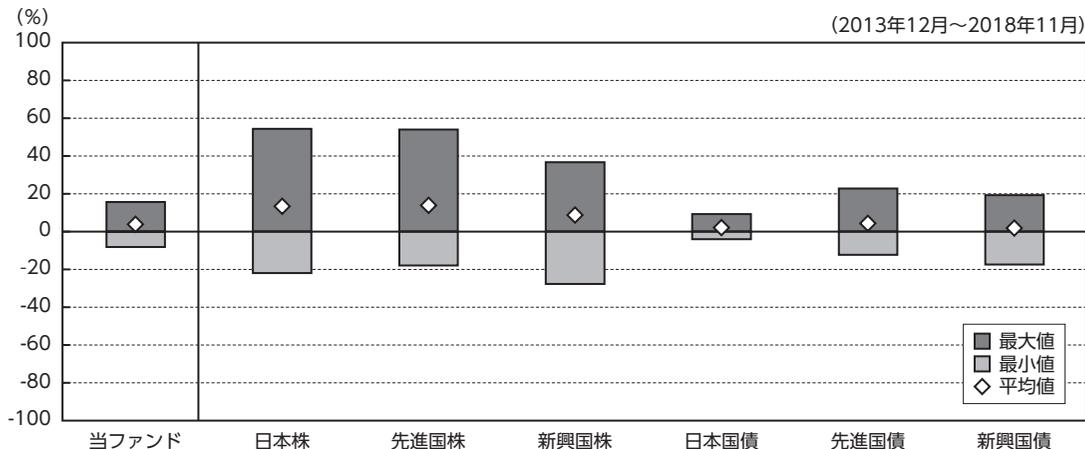
※詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数を採用しております。

- ・全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
- ・当ファンドは、分配金 (税込み) が分配時に再投資されたものとみなして計算した年間騰落率に基づき計算されており、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。
- ・騰落率は直近月末から遡って算出した結果であり、当ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

当ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較

■円ヘッジコース



当ファンドと他の代表的な資産クラスの平均騰落率、年間最大騰落率及び最小騰落率

(%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
平均値	3.8	13.4	13.9	8.7	2.0	4.3	1.8
最大値	15.7	54.4	53.9	36.7	9.3	22.7	19.3
最小値	-8.2	-22.0	-18.0	-27.7	-4.0	-12.3	-17.4

(注1) 上記は、当ファンドと他の代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。

(注2) 上記は、2013年12月から2018年11月の5年間の各月末における直近1年間騰落率の平均値・最大値・最小値を、当ファンド及び他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

各資産クラスの指数

日本株：東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株：MSCIコクサイ・インデックス (税引後配当込み、円ベース)

新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス (税引後配当込み、円ベース)

日本国債：NOMURA-BPI国債

先進国債：FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債：JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド (円ベース)

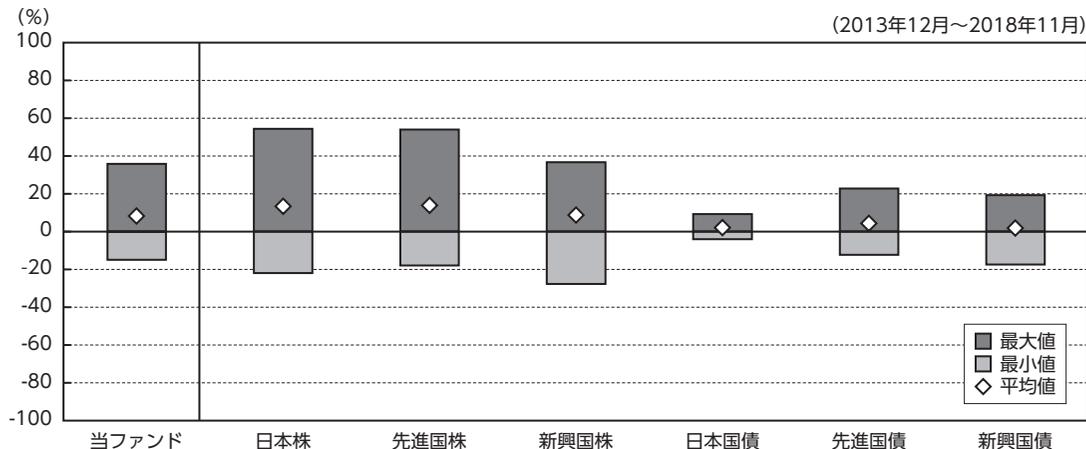
※詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数を採用しております。

- ・全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
- ・当ファンドは、分配金 (税込み) が分配時に再投資されたものとみなして計算した年間騰落率に基づき計算されており、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。
- ・騰落率は直近月末から遡って算出した結果であり、当ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

当ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較

■ 毎月決算コース



当ファンドと他の代表的な資産クラスの平均騰落率、年間最大騰落率及び最小騰落率

(%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
平均値	8.2	13.4	13.9	8.7	2.0	4.3	1.8
最大値	35.9	54.4	53.9	36.7	9.3	22.7	19.3
最小値	-14.9	-22.0	-18.0	-27.7	-4.0	-12.3	-17.4

(注1) 上記は、当ファンドと他の代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。

(注2) 上記は、2013年12月から2018年11月の5年間の各月末における直近1年間騰落率の平均値・最大値・最小値を、当ファンド及び他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

各資産クラスの指数

日本株：東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株：MSCIコクサイ・インデックス (税引後配当込み、円ベース)

新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス (税引後配当込み、円ベース)

日本国債：NOMURA-BPI国債

先進国債：FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債：JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド (円ベース)

※詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数を採用しております。

- ・全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
- ・当ファンドは、分配金 (税込み) が分配時に再投資されたものとみなして計算した年間騰落率に基づき計算されており、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。
- ・騰落率は直近月末から遡って算出した結果であり、当ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

ファンドのデータ

当ファンドの組入資産の内容

■ 資産成長コース

組入ファンド

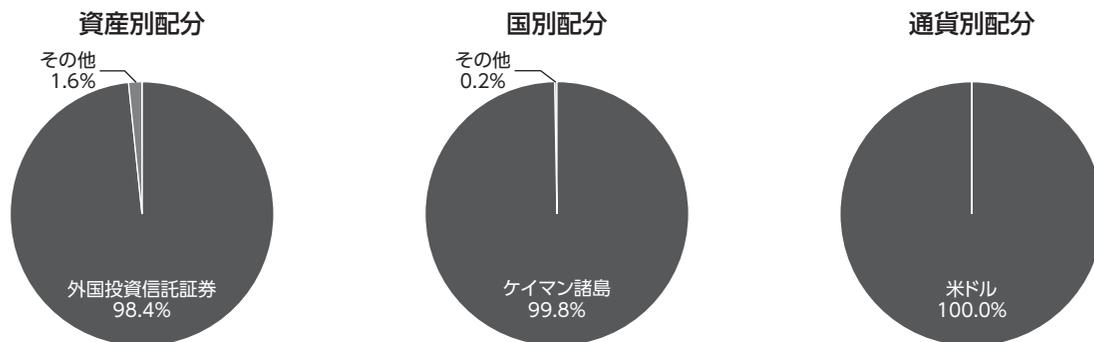
2018年12月5日現在
(組入銘柄数：2銘柄)

	銘柄	通貨	比率
1	ファースト・イーグル・グローバル・バリュー・マスター・ファンド	米ドル	98.2%
2	Amundi Funds キャッシュ・USD MUシェア	米ドル	0.2%

(注1) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)に記載されております。

種別構成



(注1) 資産別配分の比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 国別配分および通貨別配分の比率は、ポートフォリオ部分に対する評価額の割合です。

(注3) 比率は、小数点以下第2位を四捨五入しております。

純資産等

項目	第18期末 2018年12月5日
純資産総額	93,312,348,670円
受益権総口数	61,660,734,156口
1万口当たり基準価額	15,133円

※当期間(第18期)中における追加設定元本額は5,777,006,572円、同解約元本額は11,555,945,431円です。

ファンドのデータ

当ファンドの組入資産の内容

■円ヘッジコース

組入ファンド

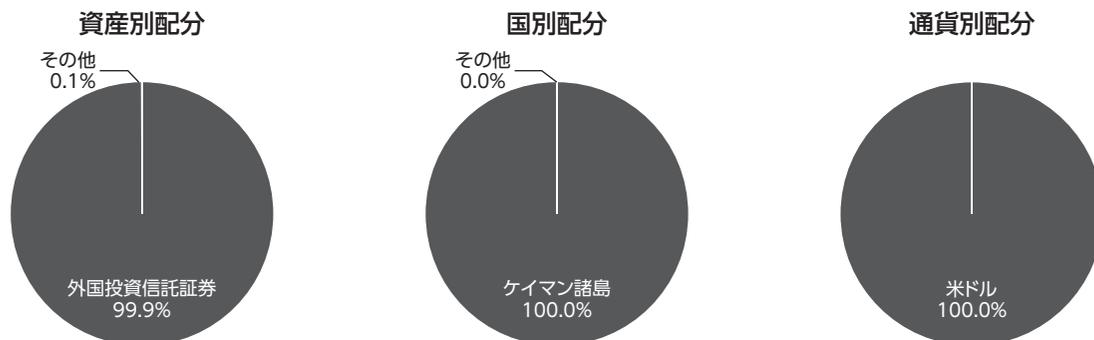
2018年12月5日現在
(組入銘柄数：2銘柄)

	銘柄	通貨	比率
1	ファースト・イーグル・グローバル・バリュー・マスター・ファンド	米ドル	99.8%
2	Amundi Funds キャッシュ・USD MUシェア	米ドル	0.0%

(注1) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)に記載されております。

種別構成



(注1) 資産別配分の比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 国別配分および通貨別配分の比率は、ポートフォリオ部分に対する評価額の割合です。

(注3) 比率は、小数点以下第2位を四捨五入しております。

純資産等

項目	第16期末 2018年12月5日
純資産総額	10,383,963,910円
受益権総口数	9,386,425,780口
1万口当たり基準価額	11,063円

※当期間(第16期)中における追加設定元本額は713,413,679円、同解約元本額は1,771,251,324円です。

ファンドのデータ

当ファンドの組入資産の内容

■ 毎月決算コース

組入ファンド

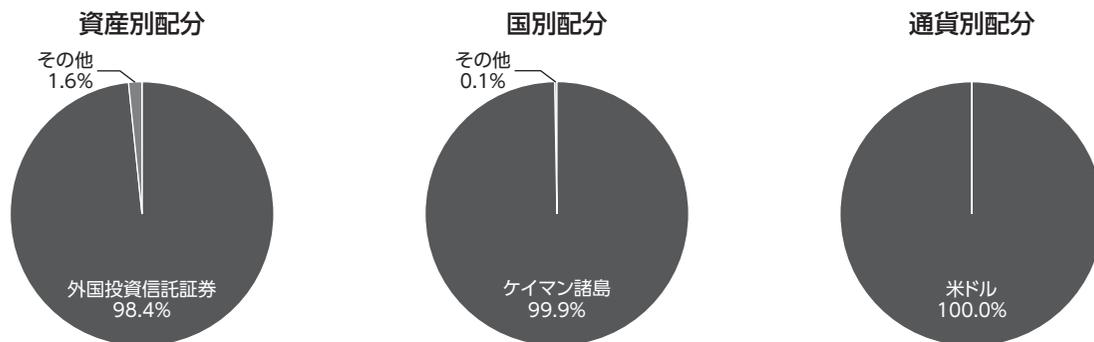
2018年12月5日現在
(組入銘柄数：2銘柄)

	銘柄	通貨	比率
1	ファースト・イーグル・グローバル・バリュー・マスター・ファンド	米ドル	98.3%
2	Amundi Funds キャッシュ・USD MUシェア	米ドル	0.1%

(注1) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)に記載されております。

種別構成



(注1) 資産別配分の比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 国別配分および通貨別配分の比率は、ポートフォリオ部分に対する評価額の割合です。

(注3) 比率は、小数点以下第2位を四捨五入しております。

純資産等

項目	第88期末 2018年7月5日	第89期末 2018年8月6日	第90期末 2018年9月5日	第91期末 2018年10月5日	第92期末 2018年11月5日	第93期末 2018年12月5日
純資産総額	181,863,347,591円	188,102,936,748円	184,131,315,595円	184,706,827,306円	173,893,208,737円	168,906,021,443円
受益権総口数	177,279,438,535口	180,846,892,376口	179,308,111,538口	175,728,815,174口	173,559,684,162口	171,458,042,309口
1万口当たり基準価額	10,259円	10,401円	10,269円	10,511円	10,019円	9,851円

※当作成期間(第88期～第93期)中における追加設定元本額は23,956,977,532円、同解約元本額は24,195,789,419円です。

組入ファンドの概要

<ファースト・イーグル・グローバル・バリュー・マスター・ファンド>

決算日：2017年12月31日

(計算期間：2017年1月1日～2017年12月31日)

基準価額の推移



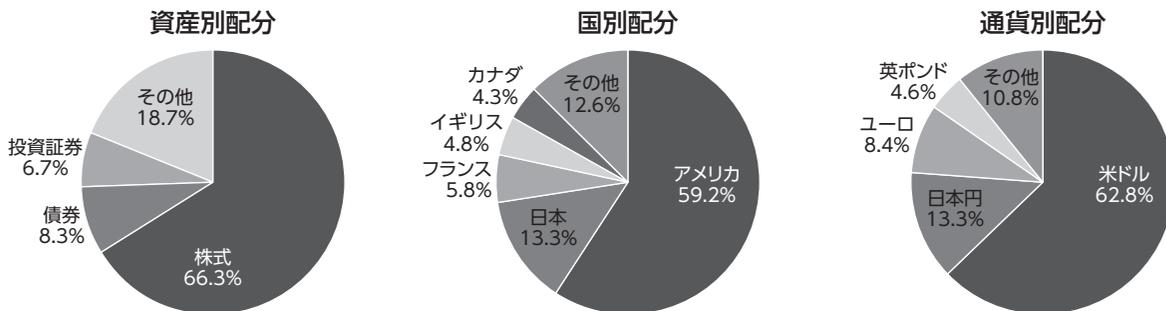
組入上位10銘柄

2017年12月31日現在
(組入銘柄数：146銘柄)

	銘柄	通貨	発行国	比率
1	SPDR GOLD TRUST	米ドル	アメリカ	6.71%
2	ORACLE CORPORATION	米ドル	アメリカ	2.21%
3	MICROSOFT CORP	米ドル	アメリカ	2.17%
4	FANUC CORP	日本円	日本	1.85%
5	COMCAST CL A	米ドル	アメリカ	1.52%
6	KDDI CORP	日本円	日本	1.50%
7	WEYERHAEUSER CO	米ドル	アメリカ	1.47%
8	SCHLUMBERGER LTD	米ドル	アメリカ	1.45%
9	AMERICAN EXPRESS CO	米ドル	アメリカ	1.40%
10	OMNICOM GROUP	米ドル	アメリカ	1.26%

(注1) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。
(注2) 全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)に記載されております。

種別構成



(注1) 資産別配分の比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。
(注2) 国別配分および通貨別配分の比率は、ポートフォリオ部分に対する評価額の割合です。
(注3) 直接投資しているのはファンド(受益権)ですが、その先の投資資産を表示しております。
(注4) 比率は、小数点以下第2位を四捨五入しております。

1万口当たりの費用明細

当該情報の取得ができないため、掲載はしていません。

組入ファンドの概要

<Amundi Funds キャッシュ・USD>

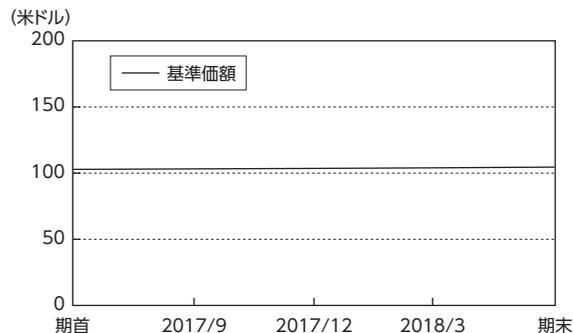
決算日：2018年6月30日

(計算期間：2017年7月1日～2018年6月30日)

「Amundi Funds キャッシュ・USD」のMUシェアは、「Amundi Funds キャッシュ・USD」にて他のシェアと合わせた合同運用が行われています。

「基準価額の推移」以外の開示情報につきましては、「Amundi Funds キャッシュ・USD」の内容を掲載しております。

基準価額の推移 (MUシェア)



組入上位10銘柄

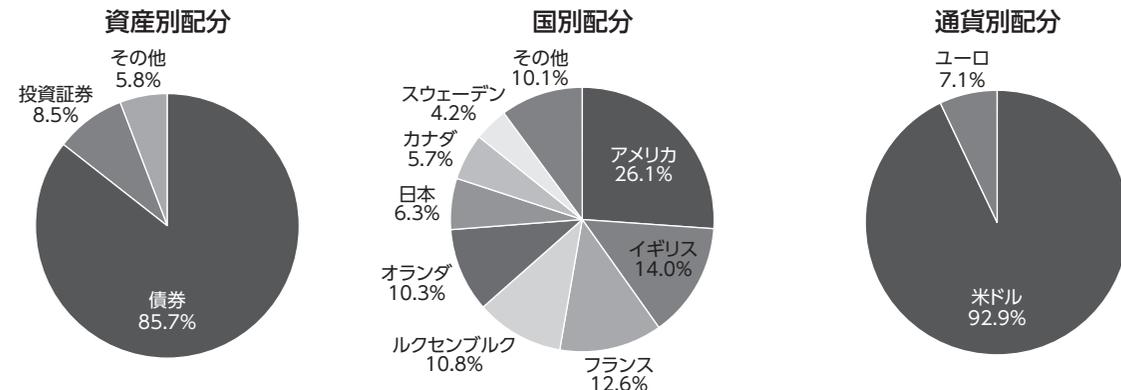
2018年6月30日現在
(組入銘柄数：116銘柄)

	銘柄	通貨	発行国	比率
1	AMUNDI MONEY MARKET FUND SHORT TERM (USD) OV C	米ドル	ルクセンブルク	8.5%
2	HP INC ZCP 23/07/2018	米ドル	アメリカ	1.6%
3	CP PRE 20180814 2.54	米ドル	アメリカ	1.6%
4	CP PRE 20181004 2.6	米ドル	アメリカ	1.6%
5	JAPAN POST BANK CO ZCP 12/10/2018	米ドル	日本	1.6%
6	ELECTRICITE DE FRANCE ZCP 02/07/2018	米ドル	フランス	1.4%
7	REPSOL INTERNAT FIN ZCP 11/07/2018	米ドル	オランダ	1.4%
8	HITACHI CAPITAL ZCP 12/07/2018	米ドル	イギリス	1.4%
9	SBAB BANK AB ZCP 17/07/2018	米ドル	スウェーデン	1.4%
10	THOMSON REUTERS CORP ZCP 18/07/2018	米ドル	カナダ	1.4%

(注1) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)に記載されております。

種別構成



(注1) 資産別配分の比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 国別配分および通貨別配分の比率は、ポートフォリオ部分に対する評価額の割合です。

(注3) 直接投資しているのはファンド(受益権)ですが、その先の投資資産を表示しております。

(注4) 比率は、小数点以下第2位を四捨五入しております。

1万口当たりの費用明細

当該情報の取得ができないため、掲載はしていません。

指数に関して

○「代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に用いた指数について

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東証株価指数（TOPIX）とは、東京証券取引所第一部に上場している全銘柄を対象として算出した指数で、TOPIXの指数値およびTOPIXの商標は東京証券取引所の知的財産であり、同指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIXに関するすべての権利およびTOPIXの商標に関するすべての権利は、東京証券取引所が有します。東京証券取引所は、TOPIXの指数値の算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの指数値の算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有します。

MSCIコクサイ・インデックス（税引後配当込み、円ベース）

MSCIコクサイ・インデックスとは、MSCI Inc. が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有します。

MSCIエマージング・マーケット・インデックス（税引後配当込み、円ベース）

MSCIエマージング・マーケット・インデックスとは、MSCI Inc. が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有します。

NOMURA-BPI国債

NOMURA-BPI国債とは、野村證券株式会社が公表する、国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数です。同指数の知的財産権とその他一切の権利は野村證券株式会社に帰属します。

FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）とは、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド（円ベース）

JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイドとは、J.P.Morgan Securities LLCが算出し公表している、現地通貨建のエマージング・マーケット債で構成されている指数です。同指数の著作権はJ.P.Morgan Securities LLCに帰属します。

Amundi
ASSET MANAGEMENT
アムンディ アセットマネジメント